

魔法のプロジェクト FY23 活動報告書

報告者氏名: 吉免有矢 所属: 思齊支援学校 記録日: 2024年 2月 20日

キーワード: 心理的な安定、環境の把握、コミュニケーション

【対象児の情報】

・学年

小学部3年生男児(K)くん

・障害名

知的障害を伴うASD

・障害と困難の内容

- 療育手帳B2(軽度相当)
- 小学部入学後は服薬なし
- 各検査結果

S—M社会生活能力検査

◆1年生時

SQ 38 SA 2-7

太田 stage

◆3年生時

ステージⅡ～Ⅲ

- 年度当初に教員から見た(K)くん

- ①イレギュラーなことに弱い
- ②パニックがあり他害がある
- ③タイマーそのものや特定のワードが苦手

【活動目的】

・当初のねらい(計画書の学習目標)と活動による方向性の確認状況

- ①見通しをもって活動に取り組んだり、成功体験を振り返ったりする経験を積んで、
落ち着いて参加できる活動を増やす。
- ②行動の置き換えやスケジューリング能力を習得し、自己決定する力を身に付ける。
- ③苦手や不安という気持ちを適切な表現で伝える。

・実施期間

R5年6月～R6年2月

・実施者

吉免有矢

・実施者と対象児の関係

学級担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

◆興味・関心

- ・電車や車が好き。
- ・タブレットを扱うのは好き。

◆コミュニケーション

- ・簡単な言葉でのやり取りが可能。
(言われていることは概ね理解できている。)

◆認識面

- ・ひらがな、カタカナ、アルファベット、日常でよく目にする漢字は読める。
- ・簡単な数の加法、減法ができる。

◆情緒面

- ・精神面で不安定になると性器いじり(安心する)や他害(男子のみに対して)に及んでしまうことがある。自分の中で人を叩くことはいけないことだと理解しているかは不明。他害後すぐに、「痛い。」、「○○くんはたたかない。」、「○○くんごめんね。」などの言葉が出てくる。
- ・NGワードが複数ある。特にネガティブな表現「×」、「違う」などを聞くと泣いたり、他害をしたりする場合がある。また、ちょっとした周囲の出来事に感情移入してしまう。

◆家庭

- ・保護者の方々には学校での教育活動や今回のプロジェクトに関して、ご理解ご協力をいただいている。

●困りの整理

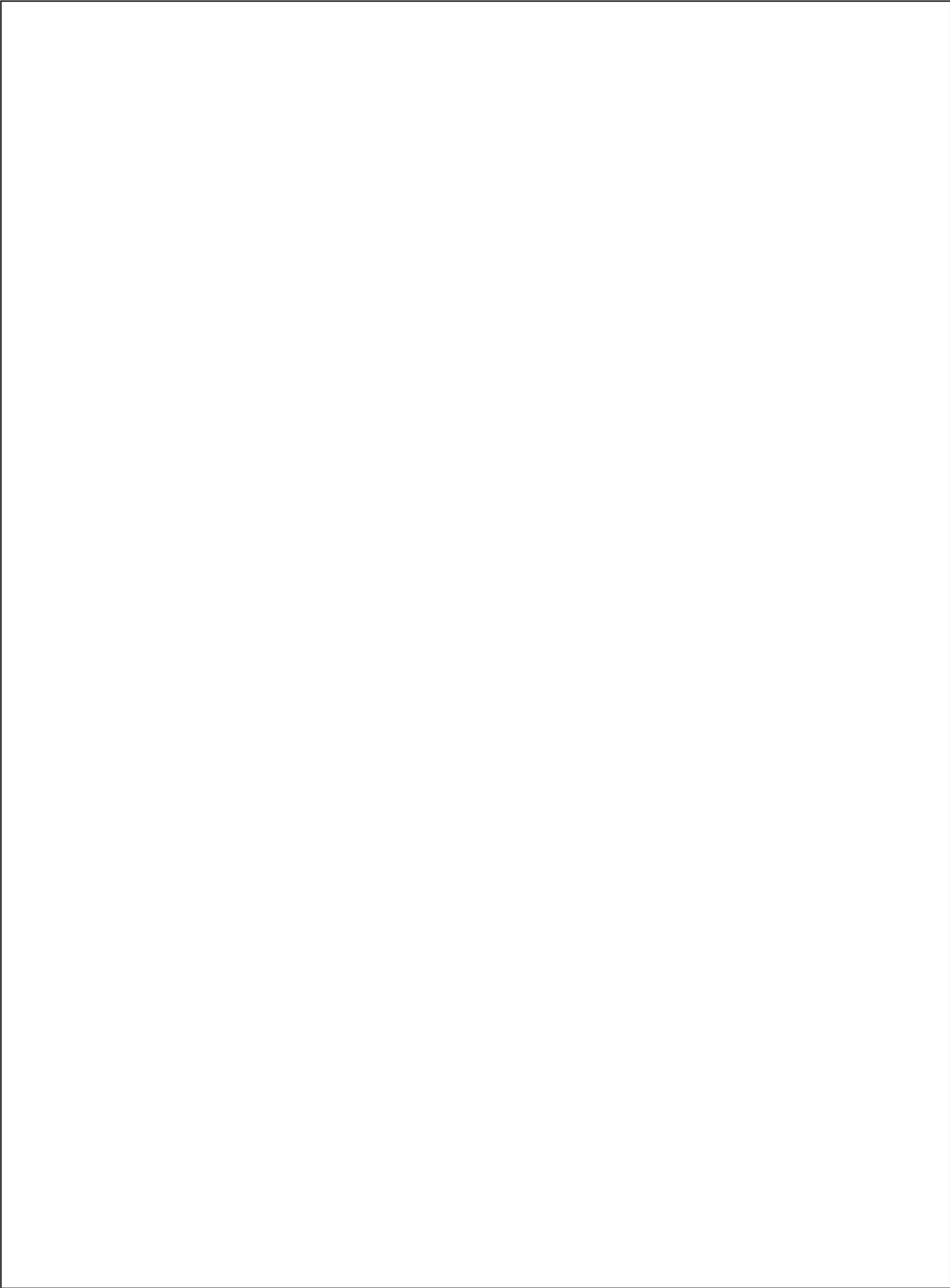
- ・特定の授業(特に生活科の授業)や新しい活動に対して強い苦手意識や不安があり、パニックを起こして他害に及んでしまうことがある。他害などが原因で、本人の意図とは裏腹に周囲の友だちとの人間関係に悪影響(喧嘩になったり「嫌。」と言われたりするなど)を及ぼしている。

➡パニックを起こす原因

- ・見通しがもてていない?
- ・成功体験が本能的には乏しい?
- ・嫌な活動でも絶対に参加しなければならないと思い込んでいる?

➡他害に及んでしまう原因

- ・イライラする時の発散方法になってしまっている?
- ・他害以外の発散方法を知らない?
- ・自分の気持ちの表現方法がわからない?



活動の具体的内容

目標①見通しをもって活動に取り組んだり、成功体験を振り返ったりする経験を積んで、落ち着いて参加できる活動を増やす。について

◆【カメラアプリ】で事前に撮影した動画で行程や手本を細かく示す。経験が少ない活動は YouTube に動画をアップロードし【図 1、図 2】どこでも視聴可能にする。また、活動中の本児の様子（良いところ）を撮影し、後で振り返って成功体験を積み重ね自己肯定感を高める。



カメラアプリ



YouTube



図 1



図 2



◆iPad のリマインダー、スマートスピーカーの音声通知機能を活用し直前に正確に次の活動のアナウンスをして、予定を知らせる。

⇒リマインダーやスピーカーを使わなくても、朝の予定確認で概ね理解し記憶できていた。

教員が頼んで活動の切り替えを他児に促してもらうことはあった。継続的に取り組むことはなかった。

◆【DropTap】のスケジュール、【Keynote】のスライド【図 3、図 4】を活用し、本児が授業の中で活動の内容を細かく確認できるようにする。

⇒新しい学習の度に同じようなスライドを提示する。知識の定着や確認も兼ねて手を使った作業学習

【図 5、図 6】も合わせて実施している。



DropTap



keynote

図 3

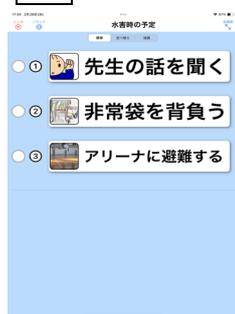


図 4

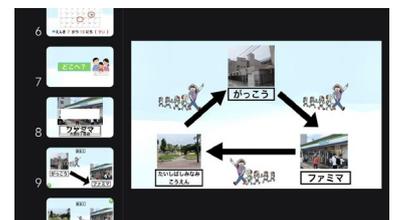


図 5

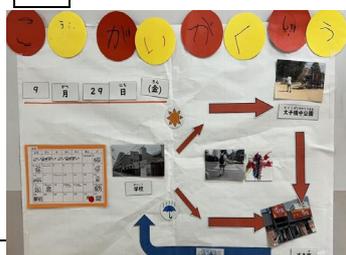


図 6



◆活動の終わりがわかるように適宜【T-AIDタイマーアプリ】を活用する。

⇒基本的には学年としてこのアプリのみを授業や休み時間等切り替えの場面で提示している。【図 7、図 8】



T-AID タイマー

図 7



図 8



目標②行動の置き換えやスケジューリング能力を習得し、自己決定する力を身に付ける。について

◆他害以外に落ち着ける方法を探る。

お茶を飲む?散歩する?好きな遊びをする?など
色々試しながら本児と一番良い方法を決定する。

⇒現在に至るまで、置き換えられる最適な方法は見つかっておらず、他害されそうな児童を離すなど座席配置を工夫したり、教員が近くで言葉をかけたりして安心させている。

◆【Drop Tap】のスケジュールで自ら予定を立てて行動できるようにする。

目標③苦手や不安という気持ちを適切な表現で伝える。について

◆【Drop Tap】、【Keynote】を活用し適切な表現で気持ちを言葉で伝える練習をする。

適宜教員が伝え方の手本を示す。



Drop Tap(VOCA)

対象児の事後の変化

・(K)くんの特性上、予定に興味を持って、それを記憶する能力は高い。

スライドや動画を活用することで、見通しをしっかりとって、より安心して活動に参加できている。

スライドや動画を提示すると集中して楽しく見ることができている。【図 9】予定をとりあえず進めるだけでなく、事前学習で習った交通ルールや買い物【図 10、図 11】にもしっかり取り組んでいる。初めての調理実習でも自分の役割を果たせた。【図 12】わからない際は、手元の iPad で動画を 見て確認していた。

図 9



図 10



図 11



図 12



・学校では、一日の予定カードを貼る係を任せ、役割をもたせながらスケジュール管理の練習をした。

週予定表【図 13】を見ながらスケジュール表のカードを入れ替えている。【図 14、図 15】

少しずつ DropTap のスケジューリングへ移行させる。

図 13



図 14



図 15



・タイマーにも慣れて【図 16】、タイマーの終わりを友だちに優しく伝えたり、片付けを手伝ったり【図 17】する様子も増えてきた。嫌なもの≠タイマー=時間を知らせる便利なものになりつつある。

図 16



図 17



・活動後に誰といつどこで何をしたかも交えながら「楽しかった楽しかった。」と自ら振り返る場面【図 18】が見られた。記録を取り出してからは初めてのことだった。最近は各教科の内容や感想を自分の言葉で振り返っている。

図 18



☆下校前にその日の頑張ったことを動画で振り返っている。

・本人の不の気持ちを不調の際に、整理し表出させるのは現段階では困難だったが、成功体験に対しての感想は自らの言葉で様々表出することができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- ①対象児は、動画による視覚情報を活用すれば様々な活動に参加しやすいのではないか。
- ②対象児は、自分でスケジュールリングした活動は納得して参加できるのではないか。

・エビデンス

①対象児は、動画による視覚情報を活用すれば様々な活動に参加しやすいのではないか。について

・動画教材をうまく活用する。

学校において様々な活動をする事前学習として、動画教材に力を入れ、毎回同じ流れで学習に取り組むことで、(K)くんの中で、動画で見た通りにやればうまくいくという考え方に変化してきたように感じる。迷った時も、自分で動画を見返してやり直す姿も見られた。もともと(K)くんの特性上、この方法が相性が良かったのかもしれない。

・パニックを起こす頻度が減った。

昨年度や今年度の最初は、新しい活動が始まりそうな空気を感じると、(K)くんの表情が曇り、場合によっては、パニックから他害をしてしまって学習どころではなくなってしまうことが多々見られた。成功体験を積み、落ち着いて参加できる活動が増えるのに比例してパニックはかなり減ってきている。



落ち着いて授業に参加できたか



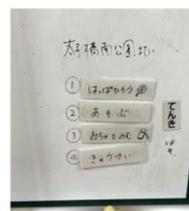
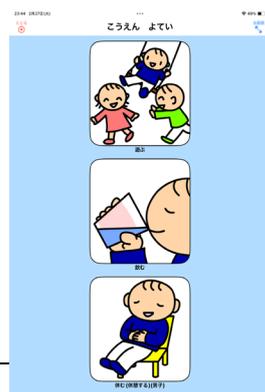
※補足

他害回数は教員が制止した回数も含む。

②対象児は、自分でスケジュールリングした活動は納得して参加できるのではないか。について

・公園散策のエピソード

生活科の授業で公園散策に出かける際に、道中はとても楽しそうに歩いているのに、いざ公園に着いて『遊び』の時間になると、毎回と言っていいほど最初の数分パニックを起こしていた。そこで、遊びの部分をもう少し細かい活動群で提示して、本人が好きなように予定を組んでから公園へ出掛けるようにした。そうすると、自分が決めた予定通りに遂行して、とても楽しそうだった。ある程度選択肢を与えた中から、予定を並び替える方が今の(K)くんには合っているようだった。そのため、DropTap に事前準備がないような活動予定は、手書きのカードで提示することが多かった。また、(K)くんの iPad を扱う技術的にも DropTap の予定を並び替えることはまだ難しい様子だった。今後繰り返し使っていく中で慣れてくれたらと思う。



・その他エピソード

・学校で弁当を食べることも受け入れることができた!

学校では給食!という考えになっており、弁当を持ってきても自分で食べるのにかなりの時間を要して葛藤していた。以前は泣きながら食べすすめていたが…

動画による情報、自ら予定を組み立てることを合わせると、学校で炊飯した米と家から持ってきた弁当(おかずのみ)というイレギュラーなメニューでもおいしそうに自分で食べすすめることができた。



・今後の見通し、展望

・まだ不安定になる活動も多いので、今年度安定して行える活動が増えたように、様々な新しい活動について『できない』から『できる』にしていきたい。



・次年度に向けて

・事前準備は大変かもしれないが、活動前に動画で見通しをもたせることがとても大切である。

・現在はうまく意思表示ができないため、不適切な行動に出る可能性があるが、代替の手段を見つけて欲しい。

・DropTap をスムーズに操作して、自分で予定を組み換えたり、確認できるように練習が必要である。

